

織部の遺響

～後水尾天皇と東福門院和子～



後水尾天皇像(宮内庁書陵部蔵)



金森宗和像(飛騨高山まちの博物館蔵)



東福門院和子像(光雲寺蔵) 三点ともパネル展示

本展では、古田織部が公家文化に遺した影響に光を当てます。

飛騨国高山(岐阜県高山市)藩主の嫡男^{ちやくなん かなもり そうわ しげちか}金森宗和(重近)は父の影響で若い頃から織部流の茶の湯を学んでそれを極め、自流を立ち上げるまでになりました。やがて宗和は公家衆や上級武士から支持を集め、茶の湯を教授するようになります。寛永(1624～1644)の頃には、陶工野々村仁清を指導して自らの好みの茶道具を造らせ、それが大いに賞賛されました。この優美な茶の湯の世界は「姫宗和」と^{やゆめ}揶揄され、利休の孫の宗旦による、むさ苦しいまでの「侘茶」と比較されたのでした。

一方、織部門下の茶人でもあった2代将軍・徳川秀忠の娘和子(東福門院)は後水尾天皇の中宮でしたが、茶の湯を好み、自らの好みの道具を遺しています。本展では、野々村仁清造の新発見の茶碗や、東福門院好みの茶器や香合、美濃国(岐阜県)の織部焼と京の仁清焼を繋ぐ焼き物として古京焼白地緑彩茶碗、後水尾天皇を中心とした寛永文化ネットワークを形成した公家衆や法親王の書などを展示します。



古京焼 白地緑彩茶碗
(京都市考古資料館蔵、
京都市・秋野々町遺跡出土)



東福門院和子好橙香合
五代中村宗哲造



金森宗和好
雲龍地紋唐船釜



野々村仁清造
色絵蓬菖蒲文茶碗

主な展示品

- ・(重美)後水尾天皇筆 宸翰横物「一貫」
- ・唐物黒塗竹節形茶杓 金森宗和所持
- ・野々村仁清造 緑釉茶碗 銘「青苔」

2017年 5月20日(土) — 9月18日(月・祝) 20 May 2017–18 Sep 2017

〔開館時間〕 9:30～17:30(入館は17:10まで) 〔休館日〕 会期中無休

〔入館料〕 大人500円／大学生・高校生400円／中学生以下300円／団体(15人以上)100円引

〔次回展観〕 9/23(土・祝)～2018/1/14(日) 織部と光悦Ⅱ—「光悦七種(異説)」赤筒茶碗 銘「有明」初公開

〔後援〕 京都府 京都市 京都新聞 (公財)京都文化交流コンベンションビューロー

一般財団法人



古田織部美術館

The Museum of Furuta Oribe

古田織部美術館 検索 click

〔住所〕 京都市北区上賀茂桜井町107-2 地下1階 〔電話〕 075-707-1800

〔交通案内〕 【公共交通機関をご利用の場合】 市営地下鉄丸九線北山駅下車4番出口右折徒歩3分

【お車で越しの場合】 JR京都駅より30分／京阪出町柳駅より10分／阪急河原町駅より20分

